

2024 インターンシップ 10 月 5 日（桂川カヤネズミ生息地）活動報告

日時：10 月 5 日（土）10：00～12：00（京都市伏見区桂川河川敷宮前橋西詰下流 500m ゲート前 9:45 集合）

参加：大学連携インターン生 2 名（大阪公立大学農学部緑地環境科学科 3 年早司海星さん、京都大学大学院修士課程 1 年平田亜耶さん、指導：全国カヤネズミネットワーク代表畠佐代子。参加総勢 14 名。

天候：晴れ

活動： 当地では、全国カヤネズミネットワークがカヤネズミとその生息地であるオギ草原の保全活動を実施している。今回は同ネットワークが主催する「カヤネズミのすむオギ原を歩いて秋を楽しもう！」という一般参加のイベントのスタッフとしてインターン生が参加した。まずは集合地点で受付の実施後、観察のスタート地点となる宮前橋へ河川敷内を車で移動。畠さんのガイドでカヤネズミの巣やオギ原の自然観察を行った。

現在、河川改修前の文化財調査を実施しており、時期と場所をずらしてオギの刈払いが実施中であるが、オギ原に沿って移動しながらカヤネズミの巣を探した。帰り道は植物や昆虫など生き物観察会となった。スタート地点に戻り、カヤネズミ・チャリティグッズの販売などがあって終了となった。

感想：早司海星さん

今回のインターンシップでは、カヤネズミの食べるものや巣を作るために用いる植物といった生態を中心に学ぶことが出来た。

特に、カヤネズミの営巣に関するお話を詳しくお聞きすることができた。その中でも、季節によって巣をつくる高さが



一般参加者受付中（左：早司さん、右：平田さん）



カヤネズミ巣の搜索中

異なることや、休憩用と子育て用の巣があり、見分けがしっかりとつく点が魅力的だと感じた。

また、カヤネズミについての知識だけでなく、桂川河川敷で群落を形成しているヨシやオギの見分け方や特徴もご教授していただき、植物への興味もより深まった。

全体を通しては、橋の改修工事を行っている地点周辺を観察した。その際にカヤネズミにできる限り影響を与えない形での工事が為されていることを知った。草刈りなどで簡単に住处が失われてしまうカヤネズミの保全の方法を、観察会という貴重な機会を通じて学ぶことが出来た。

最後に、淀から近い島本町に住んでいる身として、こんな身近なところにたくさんの興味をそそられる生き物や植物がいることに驚くと共に、これからの活動を通じて環境保全をしっかりと学んでいきたいと強く感じた。

感想：平田亜耶さん

京都府ではカヤネズミが準絶滅危惧種に選ばれていることは以前聞いたことがありましたが、巣を確認して桂川にいることを知り、すぐ近くでは車が多く走っているこんなところにいるのかと驚きました。また、鳥やヘビなどの天敵に備えてカヤネズミが上から 50 センチのところで営巣したり、複数の巣を作ったりする工夫や、個体によって巣の作り方に特徴が現れるといったことがおもしろく、そのように暮らしているのかと感心しました。

少しでも工事の影響が小さくなるように対策がされているとはいえ、希少な生き物の生息地であり子育ての期間中であるにも関わらず、発掘調査のためにカヤ原が刈り取られていった現場を見て、カヤネズミの営巣などはこれからどうなるのかが気になると同時にカヤ原の保全の重要さに気づきました。今日の観察会に参加しなければ、京都の桂川にカヤネズミが生息していることは知らないままであったため、この場所だけでなく、全国でカヤ原が減少していることから、身近な自然の価値に気づかないまま、それが壊されてなくなっていくとは、こういうことなのかとヒトが生態系に与えている負荷を目の当たりにしたことが印象に残りました。

報告：藤原 宣夫



足元にも巣発見！



グッズ販売の収益はカヤネズミ保護に・・・